２０２４年1月7日　Ｎｏ.３７０１

先週の講壇から　　〝クリスマスの夜逃げ〟

マタイによる福音書 第２章 13 節～15 節

聖句「ヨセフは起きて、夜のうちに幼子とその母を連れてエジプトへ去り、ヘロデが死ぬまでそこにいた。」(2:14,15)

１．《変わり身の速さ》　１月６日の「公現日」は占星術の学者たちが幼子キリストに相見えた日とされています。日本では、12 月 25 日が過ぎると、クリスマスの飾りは片付けられて、門松や注連縄に変えられます。クリスマスセールが歳末大売出しに早替わりです。しかし、教会暦では、受難節（レント）が始まる２月半ばまでは降誕節（クリスマス）ですから、そんなに慌てる必要はありません。

２．《変えられること》　所謂「昭和一桁」と呼ばれる世代の人たちは、十代の最も多感な頃に敗戦を迎えて、大人たちの欺瞞を目の当たりにしました。「敗戦」を「終戦」と言い換え、「一億一心火の玉」が「一億総懺悔」に変わるのです。今も日本社会が目指しているのは、時流に乗り遅れまいとする「変わり身の速さ」です。「改革、変革」と言っても、本気で変わるつもりも無いのです。「革」は「動物の皮」です。鳥の羽や獣の毛が生え変わることです。主が「新しい葡萄酒は、新しい革袋に入れるべし」と仰った通りです。「古い革袋」の自分を明け渡して行かなければ、本当に変えられて行きません。表向きに衣裳を着替えているだけなのです。時流に乗る軽薄さ、古い自分にしがみ付く頑迷さ、いずれも良い道ではありません。

３．《主の天使の声が》　「ルカによる福音書」の降誕物語の主人公がマリアであるのに対して、「マタイによる福音書」の主人公はヨセフです。但し、ヨセフには、マリアのような決め台詞がありません。彼は「正しい人」でしたが、天使の御告げに従って、自分の正しさを捨てて、神の御心に黙々と従って行くのです。自らの正しさを主張する人はいます。しかし、自分の正しさを綺麗サッパリ否定できる人はいません。私たちが自説を引っ込めるのは、小心さや自尊心からです。天使が告げると、ヨセフは一言も発せずに従います。エジプトに向かう時も、ナザレに行く時も真夜中の御告げです。夜に叩き起こされて旅支度をするのは大変ですね。夜逃げ同然とも成れば尚更です。しかし、御言葉に従うことでしたから、新しい出発でした。幼子イエスと共に、新しい年に向かって旅立ちましょう。

朝日研一朗牧師